

第14回 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会	
日 時	平成23年6月13日（月） 13時30分～15時37分
開催場所	横浜市庁舎 8階 802（8S）会議室
出席者 （敬称略）	有賀美代、石塚淳、岡田朋子、黒津貴聖、小宮山滋、坂田信子、富井亨、中川泰雄、中野しずよ、中村好美、名和田是彦、平賀裕、森本佳樹、山田美智子、山野上啓子
欠席者 （敬称略）	大木幸子、長倉真寿美、増田英明
開催形態	公開（傍聴者なし）
議 題	<p>議事 （1）第2期横浜市地域福祉保健計画の中間評価について （2）第2期横浜市地域福祉保健計画推進状況及び各区の計画策定・推進状況について</p> <p>報告 （1）公的機関向け業務指針の作成に向けた検討状況について （2）ひとり暮らし高齢者実態把握・見守り推進事業について（案） （3）地域活動者のための個人情報の手引きについて （4）推進の柱3「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」ためのヒント集について （5）横浜市地域福祉活動計画（市社会福祉協議会）について</p> <p>その他</p>
決定事項	<p>1 第2期横浜市地域福祉保健計画の中間評価について各委員の方の関連する活動について評価を行うこととなりました。</p> <p>2 評価の基準となる定量データや出典について、また、定量データ以外に定性データなど関連するデータについても補足する必要があるれば報告いただくということになりました。</p>
議 事	<p>開 会 深川福祉保健課長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局自己紹介 <p>議 事</p> <p>（1）第2期横浜市地域福祉保健計画の中間評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局説明【資料1-1～3参照】 <p>（岡田委員）その会議に私たちはまだ参加していなかったもので、横のほうの項目と主な取組は決まっていることであって、もう議論の余地なしにこの指標でいくと確定していることなのではないでしょうか。</p> <p>（事務局）基本的に指標に関しては、平成21年度の第10回では、ほぼ押さえていると思っています。</p> <p>（森本委員長）平成21年度の第10回委員会の前後で、この評価のためにわざわざ調査をするというのは相当な手間なので、主な取組とか柱の取組が進んだかどうかをあらわす、代替するような数字が何かということで、既存のいろいろなデータから引っ張ってきて、このように決めたところです。ですから、基本的には、それに基づいて5年間は取り組みます。ただ、明らかに時代の状況が変わって、例えば震災絡みで何か指標を取らなければいけないような状況もあるかもしれないということで、新たに加え</p>

ることがあればそれはやぶさかではないわけですが、この指標自体がこれでいいかどうかという議論は、もうこの場ではしないようにしたい。それを行うとまた最初からやり直しになってしまいますので。

(岡田委員) わかりました。言葉とかそういう、項目の枠組みみたいなものが変わらなければ、それは構わないですよ。

(森本委員長) はい。言葉遣いなどは構いません。平成20年までさかのぼって今から調べるとしてもわからない部分もあったりしますので。

(黒津委員) 課題が同じだから、それに基づいて行えばよいのです。

(森本委員長) よろしいですか。他にありますか。

(黒津委員) この表を見まして、確認したいのですけれども、目指す方向というのが真ん中にございますね。この充実というのは、何を基準にした充実なのですか。このことに関しての内容が書いていないものですから、ただ単に充実ではわからないので。

(事務局) 具体的な取組の部分で、数だけではなかなか表しきれないような内容については、充実という形で記載させていただいています。平成20年の計画が始まる当初と比較して、平成22年度を取組や平成24年度の最終的な取組に少しでも広がりが出てくればということで、充実という形で書いています。

(黒津委員) そうですか。データの上では数字が出てこないのですか。充実という形であれば出てくるのですよね。

(事務局) 例えば上から5つ目、1の(2)「自治会町内会を基盤とした地域ぐるみの取組」とございます。ここで、「支援が必要な人の見守り活動」という形で「活動」と書いてありますので、活動の数で表現するということではなくて、活動の内容で表現していこうというイメージで考えていただければと思うのです。いくつの自治会がこういう活動をしたから充実したという内容ではなくて、その中身まで一応考えていこうという意味で充実と考えていると見ていただければと思います。

(黒津委員) そうですか。それからもう一つ、同じ項目の中で「増」や「減」というのがございますね。この「増」や「減」というのは、何を基準にして「増」や「減」なのか。数字を見ていると、増加していないものまで「増」となっていますが、これはどういうことなのでしょう。

(事務局) 基本的な考えとしては、平成20年度の定量データに比べて、平成22年、平成24年が増加しているというところが目指す方向性ではあるのですが、実際のところこれは数字だけを見ていただくと減っている部分もございます。ただ、この部分に関しては、減ってはいてもそれ以外の部分で、例えばもう少し他に様々な手法が出てきて取組が広がっているというようなことに関しての評価を、今後は定性データのほうで補足をしていければと考えているのです。ですから、ここの「増」と「減」と書いてあるところに関しては、あくまでもここに書いてある定量データの比較で「増」「減」と書いていると考えていただければと思います。

(森本委員長) これは、事実として数字が減ったとか増えたかというのではなくて、5年間で増やしていこうということを目標にしているものについては「増」、それから減らしていこうというものについては「減」となっています。

今、事務局がおっしゃったように、例えば一番上の「配食サービスの実施団体数」

というのは2年間で6つぐらい減っているわけです。そういう意味では、減ったから目指す方向とは反しているのですが、例えば、定性データというのを見ていったときに、2つか3つの団体が統合されたというようなこともありますし、数字だけではわからないことだとか、あるいは、これは社協がつかんでいる数字なので、そうでないような活動もあちこちで始まっているなど、そういうことが出てくると、数字だけでは「減」だけれども、全体として「増」になっているかもしれないものを定性データのところで少し調べて書き込んでいって、全体で判断しようというような感じです。

(黒津委員) 数字の問題ではないということですね。目指す方向だけ示されているという増減ですね。わかりました。

(森本委員長) 数字だけにしますと、例えば先ほど出た5つ目の「自治会・町内会を基盤とした支援が必要な人の見守り活動」というのは、見守っている人がたくさん増えたらいいのかということです。そうしたら、カウントの仕方によっては、たくさん見守られているのだけれども、実はひとつひとつの見守りが手薄だったりするというようなこともあるわけです。ですから、数を増やすために評価をするわけではないので、やはり中身がどれだけきちんと行われているのかということ、定性的なところも見ながら評価をしていくというように考えてはどうかということが、2年ぐらい前の話として出ているわけです。

これは名和田先生のほうが専門かもしれませんが。行政評価の手法というのなかなか確立はしていないのですが、地域福祉計画の評価はもっと確立していなくて、あちこちで試行錯誤しながら、どういうふうに見れば地域福祉が、あるいは地域の保健が進んだと言えるのかというのは、まだ確立した手法があるわけではないのです。色々な模索をしながらやっていて、これもそのうちのひとつだと思っていただいているのではないかと思います。ただ、改良の余地はまだあると思っています。1回決めたことを1回も取り組まないで改良するというのも何なので、これで少し取り組んでみようとかというようなところであります。いかがでしょうか。

(名和田副委員長) 行政評価はもっと混迷しているので、地域福祉の評価の方がいいのではないかという気がするのですが。

私も先ほど岡田委員がおっしゃったように少し感じました。確かにこれは決めたわけですからこれで1回は取り組んでみないといけないなと思いましたが、今にしてみると、これを決めたのは2年前の第10回委員会ですか。

(事務局) 第10回です。

(名和田副委員長) そこで決めたと思うのですけれども、今にして思うといくつかこのようなものはどうなのかという点が確かにいくつかあります。それで、岡田委員のような発言になったと思うのです。やはり、これで取り組んでみるということが必要で、それを取り組んでいく中で指標などを改良していくということが必要なのかと思います。

今にして思うことの一つの例を言うと、どこかに貸館利用登録団体の総合的なつながりをつくる取組をしているかという、一番下のほうの柱3の2の(2)「活動相互の協働促進」というところにあります指標は、これは地域ケアプラザのということですね。しかし、この間の地区センター等の指定管理者の指定替えの中では、私の視点

から率直に言えば、地区センターが地域福祉のとりでになるというのは言い過ぎかもしれませんが、それに類する方向性を向いているので、一つそちらのほうで地域のつながりが広がっているかもしれない。広がるのが期待できるかもしれないので、そういうことを織り込んだ評価にしないといけないとか、あと何点かあります。

そういったことは、この1～2年の動きを見るとあります。それはでも、この指標に基づいてやってみて、特に定性データのところでそういった新しい動きとか、その後の項では拾える面があるのではないかと、今の委員長の説明を聞いて思いました。これを取り組んでみて、それで指標などを改良していく。評価というのは、もともとずっと同じではなくて、評価手法そのものが少しずつ進化していくということだと思いますので、そういうことで取り組んだらいいのではないかと思います。

ひとつだけ質問です。生活困難な家庭に対する地域での支援というのが、どこかにあるのですね。これは具体的には、どういう取組を想定しているのでしょうか。

(事務局) なかなかイメージがしにくいかもしれませんが、いろいろなところで生活困難な方に対する具体的な取組をしている区も何区かありますので、そのあたりをイメージしてとは思っています。ここに関しては現在、そこまで明確に指標という形では出せていません。

(事務局) 昨年から子ども青少年局で瀬谷区、南区、市内でたしか4カ所ほど、学習支援的な要素も含めて生活支援的な支援が必要な子供や親御さんのためのモデル的な事業が展開されたということもございます。ですから、そういった事業のようなものも平成22年度には加えさせていただきまして、指標としてどうかということで事務局としては今、データの収集と定性データを加工している状況でございます。具体的にどういう事業とか、どういうものというのではないのですけれども、モデル的な施行をしているという動きもありましたので、それは定性データとして入れていこうと考えています。

(森本委員長) 中野さんのところで取り組んでいたり、岡田さんがおっしゃっている、伴走的支援のような、地域の人が生活をしていく上で、さまざまな困難を抱えている人に寄り添いながら一緒に支援していくような取組があちこちで広がっていくとか、そういうようなものではないかと思います。これは必ずしも行政施策としてということだけではなくて、民間での活動も含めてそういうものがあちこちに出てこないだろうとか、そういうところで言っているのだと思います。

(名和田副委員長) 朝早く子供の学習をお世話するという活動は結構出てきていますよね。そういうものを、どうやったら拾うことができるかというのは、ここで知恵をいただくのは一つだと思うのです。意外なところで取り組んでいますよね。

(事務局) おそらく、行政が把握し切れていない部分は多々あるのかもしれないと思います。

(森本委員長) 居酒屋が開店する前の時間帯に、そこで教えているなどの事例がありました。いずれにしろ、地域福祉の活動というのは、あちこちでいろいろなことが行われていて、見える、つかめる、データ化できるのは、本当に一角だけなのです。それでも、やはり兆候として、一定の方向に向かっているようなことは見えてきます。その辺をきちんとつかまえて、ここに落としていくというのは、定性的な話ですけれども、

しなければいけないと思っています。

・事務局説明【資料1-1裏面参照】

(森本委員長) ありがとうございます。資料1-1の裏面、これからどうしていくかということと、そのときの具体的な取組方というのは資料1-3ですし、皆さん方にこういうことをしていただきたいというのは、右側の四角の中に入っているものに基づいて、それぞれの枠で実際に評価に対するコメントをいただきたいというご説明でした。何かご質問などございますか。

(岡田委員) 先ほどと少し似ているのですけれども、この評価の視点のABCの中身は相当議論して決まったのですね。ABCと書かれていますが、これも決まって入れたのですね。

(森本委員長) いわゆるプロセスゴール、リレーションシップゴールというのに基づいて、タスクゴールか、それを日本語として書いているものです。

(岡田委員) それぞれの項目ごと、一番右側の評価の視点のABCに入っておりますけれども、このひとつの事業についてはAの視点で評価する、ないしBの視点で評価するという表が入っておりますね。ここのところについても議論済みなのですか。

(森本委員長) 詰めて議論したわけではありません。

(岡田委員) でも、そのような傾向ということでは決まっている。

(森本委員長) ご推察のとおり、1回の委員会でこのようなものでいかがですかと事前に配って、期日までにご意見がなければこれで決めますというようなものなので、隅々まで精査をしたということではありませんけれども、一応これ自体は、先ほど説明したような形でABCの視点、そういうところまでの確認はしたつもりです。ただ、1の(1)の何がAだとかCだとかという、そこまでは十分に詰めてはいないと思います。

(岡田委員) 議論は行っていないのですね。

(森本委員長) ですから、おそらくAと書いてあってもBという視点の見方で評価ができる部分もあるのだらうと思います。

(岡田委員) そうなのですね。

(森本委員長) それほどきれいには分かれられないかもしれません。ただ、それがAだけではなくて、Bという見方でもこの項目はこういう評価になるのではないかということは言っていて構いません。

(黒津委員) この評価の採点のABCの見方をもう1回説明してもらいたいのです。どういうことかと言うと、例えば、一番目の1の(1)はAとなっていますね。これはABCでなくてAだけを取ったのですね。ABCがあったりACがあったりするのですが、これは3つのABCの評点を、ここのところだけが重点的にとらえられるという考え方でいいのですか。

(森本委員長) ABCは、AがいいとかCが悪いとかという意味ではなくて、資料1-1の一番最初の枠の中にあるように、Aというのはつまり、はっきり言えば実際書いてあることがどれだけ行えたかという話です。

(黒津委員) マイナス点ではなく、プラス点ですね。

(森本委員長) いや、ABCは点ではないのです。判断基準です。

(黒津委員) ええ、ABCの内容は、判断基準としてはわかるのです。それがひとつ。もうひとつは、資料1-3の右の四角にアイウという3つの評点がありますが、これは目指す方向とか、ABCとの関連がかなり強いと考えていいのですか。

(事務局) 定量データと定性データを読み取って、事務局案としてこういったところの評価ができるのではないかというコメントを、これから発送させていただきます。そういったことを参考に、皆様お一人お一人が実際、この資料から感じたことや、これは読み取り方が違うなどというものがございましたら、理由を書き添えていただき、それは充実したとは言わないのではないかと、逆に不十分ではないか、十分ではないのではないかとというようなところも意見としていただければと思っています。

(名和田副委員長) おそらく、森本先生、岡田先生等、専門の先生はこういう作業を他の自治体でもおやりになっているのかもしれませんが、私は横浜の区でしかこういうことをやったことがなく、区でやったときの思い出をたどると、ともかく評価というのは非常に大変で、そのときだけは会議が長引くというような記憶があります。やはり大事なことは、私も一委員として、横浜に住んだり活動したりしていて、できる限り自分の実感と体験とで持っているデータをアンテナとして張って、ここに書かれている評価に違和感があるかないかとか、具体の事実に即しているかということを考えながら、人をけなすために評価するわけではなく、前進するために評価しているということを念頭に置いて、それでこのアイウがある四角のところを書いていただくということになると思います。

その辺のイメージは私自身もかなりあやふやなのですが、委員の皆さんはどういうイメージをお持ちなのか、いくつかお聞かせいただければと思います。これを見て、自分だったらこんなことを言いそうだとか、こんなことを考えればいいとか。8月に送られてくるわけですね。そこで委員の孤独な作業が始まったときに、ちゃんと書けるだろうかという不安が私にもあります。

どなたか、どういう視点で自分はやりたいというようなイメージを語っていただくと私も安心します。中野委員はどうでしょうか。

(中野委員) 私もいただいたら自信がないと思いました。見聞きしている分野でしたらある程度根拠のあるものが入れられるかと思いますが、見聞きしていない分野について何と答えたものか不安に思いました。根拠がないので、回答を差し控えさせていただくと書いたらいいのか、そこから関係者に「実際、あなたはどうか？」と聞いてまわったらいいのか、どうしようか迷いが出てきました。

(森本委員長) 基本的には、自分の活動で言える範囲で答えていただければいいと思います。ですから、全然関係ない項目だと、「ここは該当しないのでわかりません」でいいでしょう。自分が取り組んでいる活動が、2年前と比べて例えばどれだけ伸びたとか、取り組みやすくなったとか、あるいは地域の人々の理解が得られるようになったとか、そのところで書いていただければいいと思うのです。全部のことがわかっているというのは、まずあり得ないわけですから。

(中村委員) ちょっとポイントがずれているのかもしれませんが、私も(2)というデータの出典のところ疑問に思いました。数字的なものでも資金が関連している、

例えば補助金ですとか活動資金が関連しているところはかなり正確なものが出てくると思うのですが、それ以外の目に見えないところでかなり埋もれていることがあると思うのです。地区社協単位でも、町や地域では活動が活発に行われていて、小さな母親サークルみたいなものも沢山あるけれども、社協の一員になって活動を一緒にしていくのは大変だから、活動資金もとりあえずはいりませんというところもあるでしょう。でも、実際には活動しているところもあるのです。そういうところを拾い上げるには、地区社協などに一覧表か何かにして、どのぐらいあるかをマル・バツ式で取るというのは難しいのですか。

(森本委員長) 要するに、このために調査をすることはやめようというのでスタートしています。それは、評価は何のためにするかということ考えたときに、第2期の終わりの時点で残された課題とか達成できた課題がある程度分かって第3期につなぐというのが、評価のひとつの大きな目的だからです。そうすると、例えば、真ん中の年に現実の数値をつかむためだけに調査をするというのは大変なので、分かる範囲で何となくそれをあらわしているような数字はないだろうかというのでピックアップしてきたのが、今書いてある統計のもとなのです。だから、ある意味、もともとそれが正しくその事態を反映しているとは思っていませんが、ひとつの指標、参考にはなるだろうというぐらいの数字で考えています。それだけだと不安だったり的外れだったりする可能性があるので、定性的にはどう感じるかということを入れ込んでいこうというような位置づけです。

(中村委員) わかりました。例えば、先ほどの社協の配食でしたら、統合されているところもあるという説明でしたが、それはすごく納得できます。

(森本委員長) 今、言われたように、地区社協を通さないで活動しているのもいくつか存在するというようなことを書いていただければ、社協は安心したりするわけです。

(中村委員) そういうことでいいわけですね。逆にそうすると、自治会・町内会で先ほどおっしゃっていた充実というところは、充実しているような感じがするというぐらいなのかという気がしてしまうのですけれども。

(森本委員長) 自分が知っている例で、こんなことがあったので前よりは良くなっていると思うとか、そんな感じだと思います。

(中村委員) わかりました。

(名和田副委員長) 若干、憶測を言うと、この中で区事業企画担当という方が書いているデータの出典がありますが、この方々はかなり地域に出向いていらっしゃるので、地域の様子をつかんでいると期待しています。月1回集まって会議を行っていますよね。それを通じてかなり定性的、場合によっては幾つあるというような、今、中村委員からご紹介いただいた件も含めて、かなりつかまれているのではないかと、私は期待しているのです。

(事務局) 先ほどの区の範囲であれば、ある程度いろいろな形でそれぞれの区の活動を含めて集約できるのですが、市域でこういうものを評価するというのは非常に厳しいというのは実感として我々も持っています。区のほうでもこういうところが充実してきた、逆にここはなかなか進まないけれども、こちらの活動は充実してきているというようなものを、先ほどお話があった区の事業企画担当も含めて分かっている範囲もあ

りますので、様々な形でそういう声をできるだけ拾い上げながら、定性データに反映できるようにはしていきたいと思っています。

この指標だけで全てを語れるとは我々も思っていませんので、皆様の活動の範囲で分かっているところ、こういうところが参考になるのではないかというご意見を、今回の指標のところも含めていただけると嬉しいと思います。補足なり、またこんな視点もあるのではないかというところがあれば、ご意見をいただくと我々としても評価できると思うので、ぜひお願いしたいと思っています。

(2) 第2期横浜市地域福祉保健計画推進状況及び区の計画策定・推進状況について

・事務局説明【資料2-1～4参照】

(森本委員長) ありがとうございます。区計画全体について、今年度の内容、取組状況ということでご説明いただきましたけれども、何かご質問やご意見はございますか。それぞれご自分の地域で区の計画に関わっておられたりする方もいらっしゃると思いますが。

(黒津委員) 私は港南区です。資料2-4を開いていただきたい。左上のほうに書いてありますように、従来、区社協と関連性はなかったのですが、今度一体化するというのは非常に良いことではないかと私は思います。

もうひとつは、地区別計画のエリアの問題です。連合町内会が大体各区にあるようですから、連合町内会の地区の単位で計画をお立てになっているのですね。ところが、連合町内会に加入していない町内会というのは、概算してどのくらいの数があるのですか。かなりの数があるのでしょうか。

(事務局) 区によって大分それは違います。

(黒津委員) 私のところも最近脱退したので心配です。

(名和田副委員長) 港南区は多いですね。

(黒津委員) どのくらい連合町内会に加入しているか、概算で分かりますか。分からなかったら結構です。

(事務局) 明確な答えは出ませんが、確かに100%ではありません。脱退されている町内会もありますし、逆にまた入られるところもあると思うのです。大体どのくらいでしょうね。

(事務局) 自治会町内会加入率は、横浜市は大体7割ぐらいと言われています。

(事務局) その中の町内会が連合に入っているかどうかということもありますので。

(名和田副委員長) 加入率ではなくて、黒津委員がおっしゃったのは連合未加入の問題です。連合自治会に入っていない単位自治会がある。それは、港南区といくつかの区でやや目立っているのです。

(事務局) 区によってばらつきがあり、ほとんど入られている区もあれば、港南区さんのように割と連合未加入のところが多くなっているところもあると思います。

(黒津委員) 市としては、できるだけ連合町内会に加入するように勧めてもらうことを行わなければなりませんね。

(事務局) そうですね。地域振興課が町内会を担当していますので、それぞれの単位町内会にも働きかけはさせていただいていると思うのです。そうしませんと、なかなか情報

がスムーズに流れないということもあるので、ご要望は伺ってまたお伝えしておきます。

報告

(1) 公的機関向け業務指針の作成に向けた検討状況について

・事務局説明【地域ケアプラザ協働連携指針（仮）の策定について参照】

(森本委員長) ありがとうございます。今のご説明について、何かご質問はございますか。

(中村委員) 検討会のメンバーですけれども、関係機関というところで、例えば教育委員会などは学校を中心としたまちづくりのようなことで、かなり前から地域コーディネーターですとか、そういう養成の事業をしていると思います。既にそういうところの養成講座を受けて、様々なボランティアを発信しているような方もいらっしゃるのですけれども、前回のパンフレットのようなものを教育委員会のほうでも作ったことがあると思います。そういうところとの連携というのは、考えていらっしゃるのでしょうか。

(森本委員長) 関係機関の中に、教育委員会なども含まれていますか？ということです。

(事務局) 基本的には、健康福祉局を中心としながらですけれども、随時オブザーバーという形で、関係するところを情報提供いただければ、こちらとしても議論に加わっていただきたいと思っております。メインはケアプラザということになりますので、どうしても健康福祉局が中心にはなってきますが、随時そういったことは取り組んでいきたいと思っておりますし、平成24年度に向けてこども、障害も含めてということも考えておりますので、またそのときに改めて、例えば、平成23年度はオブザーバー的な形で関わっていただきながら平成24年度にしっかりメンバーとして入ってもらいたいということも選択肢として考えていきたいと思っております。

(中村委員) そうですね。なぜ、申し上げたかという、教育委員会の講座の募集要項という関係機関の中に、必ず地区センターとケアプラザが入っているものですから、せっかくそういうことがあっても、もったいないという気がしたからです。

(森本委員長) 現実問題として、なかなかうまくいっていないところもあるし、うまくいっているところもあるでしょうけれども、学校というのはやはり地域のひとつのコアになりますから、その辺はできるだけ意識しましょう。呼び込むような形で動かないと、なかなか動いてもらえないところもあるかもしれません。

(黒津委員) 港南区にも最近、日野南ケアプラザができて、各地区にケアプラザの方が出張してくるのです。それで、町内会の会合には必ず相談窓口を設けています。町内会の回覧板にもそのことを書いています。ケアプラザの方は忙しいでしょうが、できるだけ地区に出てもらおうように、これだけはお願ひしたいのです。

(2) ひとり暮らし高齢者実態把握・見守り推進事業について

・事務局説明【資料3参照】

(森本委員長) ありがとうございます。何かご質問等はございますか。

(山野上委員) 直接的ではないのですが、この間の災害もあって、障害者の方の居住支援のこともまた別途出てくる予定はあるのですか。

(事務局) 障害者の関係に関しては、今のところ、災害時要援護者支援事業という形で事業を展開しているところでございます。これはどちらかというところ、75歳以上のひとり暮らしの方を中心とした民生委員の活動をさらに充実していただくということと、地域の見守りをより充実していただくという目的のところでご提供していくということで、実はこの元が平成21年の本委員会の検討会という形でご提言いただいたことから、今回こういう形でようやく情報提供できるということです。もう一方で、災害時要援護者に関しては障害者も含めた形で、どちらかというともう少し要支援の強い方、例えば高齢者でいますと要介護3以上であるとか、そのあたりも含めて別の事業で検討させていただいているところでございます。

(石塚委員) この事業は本当に前進なのだなと思うのですが、この後の見守り推進の体制づくりだとか、仕組みづくりということがその後やはり大事なことになるのではないかと考えています。民生委員と包括支援センターは、ここ数年の中で距離が大分近づいてきたように思うのですが、継続して担当しているケアマネジャーと民生委員のつながりというのが、もう少し進んでいくといいと思うのです。この機会ですらういったところの、民生委員とケアマネジャーの顔の見える関係づくりのできる懇談会を行うとか、あと以前から考えているのは、担当者会議みたいところに民生委員に出席をしていただいて、そういったところで個別の支援チームみたいなものができていくといいのかなと思います。

(事務局) おそらくこのモデル事業を実際に区の中で展開していくときに、そのあたりの手法をどうしていくかを一緒に考えていくような感じだと思うのです。以前、私が携わったときには、民生委員とそこのエリアのケアマネジャーとの懇談会を開催しました。事業者の方と地域をどうやって結びつけるかという方法を行政サイドで考えて、そこはケアプラザと一緒にやっていくというイメージをつけながら、民生委員だけではなく、地域のいろいろな社会資源も含めた中での見守りをどのように取り組んでいくかを、地域全体で考えられるような体制ができていくと良いかと思っています。ぜひまた、ご協力いただければと思います。

(森本委員長) ほかに、個人情報審議会にこういう形の目的外利用で出すというのは、頻度としては結構件数があるのですか。

(事務局) 今回のように目的外使用という形でかけるケースというのはあまりないです。

(中野委員) ケアマネジャーとホームヘルプとデイサービスの事業所をしているのですが、このたびの震災が起こった3月11日に、確認でひとり暮らしのお宅を歩いて周ったのです。そうしたら、大変安心したという声をいただいたのですが、思えばその時、民生委員だって心配していらっしやっただけだけれども、伝える術がない。自分の事業所としては、全員安全を確保しました。テレビが落ちたぐらいで利用者さんの怪我はなく、血圧が少し高まったぐらいで済んだのですが、思えばどこにも知らせなかったのです。もしかしたら、普段から連携している他のところにも、この方は既に見に行っただけで大丈夫でしたよという報告をしてお互いの確認ができれば、民生委員も1人で走り回らなくて済んだのにと、今日になって気づきました。

(事務局) すみません。やはり民生委員も活動されて、電話をかけられて、自分がよくご存じのところには安否確認をしたというようなお話も伺ったりはしているのですが、

地域と事業者とつなぐという段階までなかなか到達できていないというのが我々としても反省の部分です。ぜひ、そういう広がりを持つ事業になっていければいいと思っています。

(3) 個人情報の手引きについて

・事務局説明【資料4参照】

(4) 推進の柱3「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」ためのヒント集について

・事務局説明【資料5参照】

(森本委員長) これは実際には、どのぐらいの数の印刷をするのでしょうか。

(事務局) 印刷自体は1000部ですけれども、増し刷りできるような形にするので、適宜増やしていくようにします。

(森本委員長) 要望があれば増やせるということですか。

(事務局) そのために、これは印刷用に白黒ですけれども、ホームページ上はカラーですので、一応使い分けられるような形で、ホームページでもアップする予定です。

(森本委員長) 自分でダウンロードすればいいということですね。

(事務局) そのような形でもできますし、ご要望があれば印刷もできます。

(森本委員長) 感想などいかがですか。

(名和田副委員長) 分科会長としては、ともかくこれは、予算がない中で作っているのが大変だったと思うのですが、分科会だけの委員の方も色々と発言してくださって、良いものができたと思います。ここにいらっしゃる方でどなたか一言、山田さんなどはどうですか。

(山田委員) 立派な冊子になって、読みやすくなりましたし、今度はこれを次にどう活用していくかというのを、一生懸命考えて動いていきたいと思ったのですけれども、リーフレットはどうするのですか。

(事務局) リーフレットを作るか作らないかというご意見の中で、リーフレットだと概要がよく分からないということで、こちらのほうに力点を置くようにというご意見を踏まえてこれを作っております。こういうものが作られましたという広報は、また別の、例えばチラシなどを作るときは想定しております。

(森本委員長) 上からいろいろな、また新しい取組だとか、それにかかわる新しい変化を見てきたりするので、ホームページ上は何か追加のヒント集みたいなものを増やしていけたらもっと良いかと思います。

(5) 横浜市地域福祉活動計画（市社会福祉協議会）について

・事務局説明【資料6参照】

(森本委員長) ありがとうございます。何かご質問、ご意見はございますか。皆さんはやはり人材について、なかなか大変なように思っておられるのでしょうか。事業は進んでいるけれども、後継者のことなどを考えるとなかなか難しいという考えでしょうか。

(名和田副委員長) その件についてですが、企画委員会に、今ご紹介があったように中野

委員と徳田部長とともに出席させていただきまして、私は地区社協アンケートを読んでそのときの資料を見ているのですけれども、内容がなんだか思い出せないのです。地域のつながりは増えていると言っているけれども、活動者は変わらないかあるいは減っている。増えているところもちろんありますが。ここにいらっしゃる皆さんは地域で活発に活動していらっしゃる方ばかりで、そのことは本当に貴重なことですが、そういう気持ちや活動の内容などが一般の地域に住んでいらっしゃる方にどのぐらい届いているかということに、若干不安を持ったというのが私の率直な考えです。それは、データの読み方が間違っているのかもしれませんが、そうすると、何かすそ野を広げることがとても大事だと、実はかなり前から思っています。先ほどの地域福祉保健計画の評価の仕方などでも、すそ野がどのくらい広がったかということをもう少し入れたいというのが、先ほど岡田委員に賛成した理由だったのです。そこでもっとすそ野が広がっていくような工夫をしないと、先細ってしまわないかという不安を持ったところです。これは全くの感想ですので根拠がないかもしれませんが、参加させていただいてそのように感じました。

(富井委員) そうですね。アンケートを取ると、地区社協の関係者の方は、確かに身近だから広がってきているという感触は持っているのです。しかし、そこに関係する人だけではなくて、いろいろな人が参加していく中で、では、果たしてすそ野が広がったのかと見たときに、正直なところ、この数字には出ないのかもしれないと思うのです。ですから、そういう声を拾う方法というのはなかなか見つけにくく、どうしても関係者が集まるところでしか聞きとれていないという点は、確かに反省するところかと思えます。

(中野委員) 今回の震災は大変不幸なことではあるのですが、阪神・淡路大震災のときもそうだったように、「何かしたい、お役に立ちたい、でもどうしていいかわからない。募金ならできるけれども、でも、もう少し何かしたい」という人たちがいらっしゃって、19日は雨だったのですが、瀬谷駅前の広場では、復興のための浪江町焼きそばというのを作った団体がいました。ただ、材料を浪江から仕入れられなかったためか「もどき」と書いてありました。浪江もどき焼きそばと。新潟のほうから仕入れたそうですが、浪江町に実家のある人が焼く係になったり、今まで全然ボランティアをしていたのではない、精神障害の方を支えるNPOの方々が呼びかけたのですが、参加者は思いがけず多く、もちつきだけでも手伝ったり配ったりしており、お客で来た人を巻き込んで何かしたいという思いの人に声をかけていました。ボランティアをしたいけれども取っかかりが見つからない方、あるいは、したいと思っていなくても呼びかけたらする方に、これからこのヒント集はすごく力になるなと思いました。

(名和田副委員長) そうですね。現在、阪神・淡路のときも一貫して戦後下がってきた自治会の加入率が持ち直している自治体が多くあります。地域活動をしたいという気持ちが高まるチャンスという不謹慎だけれども、そういう時期ではあると思います。

(森本委員長) うちの学生などを見ても、気持ちはあるけれども何をしていいかわからないという学生が多くて、おそらく適当な活動の場みたいなものや機会があると、飛びつくというのは変ですけれども、参加する気持ちがあるのだろうというのは確かに思いました。

	<p>(中野委員) 私は被災地に行ってきました。やはり何をしていいかわからないけれども来てしまったという個人ボランティアさんが体育館に300人ほど雑魚寝をしていて、翌日の朝になると「はい、7人、泥かき」、「次は畳上げ」などと言われて出発しており、どこに派遣されるかわからないけれども、とにかく寝泊まりをして出ていく人たちがいました。過酷なものによく頑張っていました。あとは出ていく人ばかりではなくて、残ってトイレ掃除をしたり、体育館のみんなの私物を見ている人など、様々な役割が必要で、寄せられる物資の仕分けに段ボールをあける暇もないという状況でした。薬などはメーカーが沢山届けていましたし、軍手なども沢山あったのですけれども、それ以外の物資を適切に配布するのが難しいという部署がありました。また、個人的に行ってしまうと、向こうの方のコーディネーターが大変なのです。</p> <p>私どもはこちらで先にあちらのコーディネーターと打ち合わせの上、期間や場所やミッションの内容を決めてチームを組んで行きました。これだと活動しやすくて、このような形のチームのところに加わってくれば、多少ボランティアに疎い人でも、向こうに行って声をあげたりしないことなどの約束や注意事項の確認なども、先にしてから入ることができます。個人で行ってしまうのもあり、個人で行かずにどこかの団体に乗るのもありだとすると、このヒント集のように「行かない？」など声をかけて、チームを組んで行くのもいいかと思います。名和田先生はチャンスとおっしゃったけれども、私も出てしまいそうな台詞なのです。チャンスと言っては本当に失礼とは思いつつも、活動に行ったことで、普段の生活が実はどんなにありがたいことが再確認できたりするチャンスだと思います。</p> <p>その他 (森本委員長) その他、何かございますか。 (事務局) 特にございませぬ。</p> <p>閉会</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>資料1-1 第2期横浜市地域福祉保健計画 評価方法について(事務局案) 資料1-2 第2期横浜市地域福祉保健計画 評価シート 資料1-3 第2期横浜市地域福祉保健計画 評価シート<平成22年度データ収集の結果(H23.6.13速報版)> 資料2-1 平成23年度 横浜市地域福祉保健計画 関連事業取組状況 資料2-2 【20年度から22年度】第2期区地域福祉保健計画の策定推進状況(各区スケジュール) 資料2-3 【23年度~】第2期地域福祉保健計画の推進状況(各区スケジュール) 資料2-4 地域福祉保健計画に関連する各区の状況 資料3 ひとり暮らし高齢者実態把握・見守り推進事業について(案) 資料4 地域活動者のための個人情報の手引き 資料5 推進の柱3「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」ためのヒント集 資料6 平成22年度 第4次 横浜市地域福祉活動計画 進行管理・評価報告について</p>

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会委員名簿 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会事務局名簿 地域ケアプラザ協働連携指針（仮）の策定について
--